

## 令和6年度第3回佐賀市上下水道事業経営審議会 議事録

- ◆ 開催日時  
令和6年12月2日(月) 14:00～15:30
- ◆ 開催場所  
佐賀市上下水道局5階 大会議室
- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は会長、○は副会長  
猪八重拓郎、○合六丈晴、古賀醸治、坂井俊彦、◎角田幸太郎、福田忠利、水町良雄、  
溝上良雄、吉村純子
- ◆ 欠席委員（敬称略）  
池田敦子
- ◆ 事務局  
佐尾下水プロジェクト推進部副部長、一ノ宮副理事兼総務課長、栗原総務課参事兼副課  
長兼企画係長、重永財務課長、北村業務課長、田中下水道工務課長、江口下水道施設課  
長、溝口給排水設備課長、野田総務課主査、廣瀬総務課主査 外
- ◆ 傍聴者  
なし
- ◆ 議事要旨

### 1. 開会

（司会による挨拶）

### 2. 佐賀市上下水道事業管理者職務代理者あいさつ

#### ○事務局

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、第3回佐賀市上下水道事業経営審議会にご出席  
いただきまして、誠にありがとうございます。

前回の第2回の審議会では、貴重なご意見をたくさん頂戴いたしまして、ありがとうございます。その中で、今回の第3回におきましては、私どもで考える使用料改定のシミュレーションを提出するようというご提案がございましたので、本日そのシミュレーションのほうを提出させていただきます。よろしく願いいたします。

### 3. 議事

議事1「下水道使用料のあり方について」の説明をお願いします。

#### ○事務局

≪「議題1」の説明 約20分≫

#### ○会長

最初に確認をしたいが、経営的には料金の値上げが望ましいんじゃないかということ  
は分かるが、意見書はどこまで踏み込んだものを提出すればよいか。

#### ○委員

前回の会議で、具体的な改定率は我々委員から言えないのではないかと発言したが、感  
覚的には値上げしなければいけないのは分かるが、実際の収入・支出をどう見積もって  
いるのか、工事量をどう見ているのか、総体的な数字がないと何も言えない。

今回のシミュレーション、ボリュームゾーンの75%の市民に負担感を持たせながら、  
一番安いところ、1人世帯は軽減をすると。これもどうかと思う。市民にはこの数字がど  
うやって算定されたか、なかなか分かりづらいと思う。

#### ○事務局

老朽化・耐震化の対策を入れ込んだ形で算定をしたところ、資金が令和10年に枯渇し  
てしまう中で、市民の方の負担をできるだけ軽くして、資金ショートを回避するような、  
そういった案を二つお示ししている。デメリットとして、大規模な施設の再構築について  
は先が見えてないので、今後具体化させていきたい。

#### ○会長

佐賀市の過去2回の改定率11.2%の根拠は何か。

#### ○事務局

昭和53年に下水道の供用を開始し、鋭意、面整備を行ってきた。接続率も上がって  
いく中で、収支が合わない分については一般会計から繰り入れを行ってきた。まだ下水道が  
普及していない中で、少数の方たちに負担がかからないよう、普及率を掛けた形で算定し、  
段階的に上げていった。

#### ○会長

前回、前々回の改定率が11.2%で、全国的にも11.67%、今回9.25%でい  
いのかと思っている。

委員の皆様、ご意見を。

#### ○事務局

補足だが、(前回改定の)平成22年から段階的に上げていってもらえたらよかったとの意見があったが、当時と社会情勢が違ってきており、この物価高騰のレベルで上げていたら、市民の方に非常に負担をかけるため、できればパターン①から②の中で上げさせていただいて、今後の社会情勢の変化を見ながら、また再度提案していきたい。

#### ○委員

いま全国的に、何のために使用料を上げているかという、一番大きな問題というのは人口減少で、ここで低く上げるということは、10年後20年後、ものすごく上げないといけない。今100という人口がいるとすれば、その後、80とかに減少したとき、そのときに80に対しての使用料というのは、25%とか30%とか上げないといけなくなる。将来を見越して、今果たしてどのぐらい上げたほうがいいのかという、先の見通しを考えた上での改定が求められると思う。

先日、日本の人口がどれぐらい減っているか数字として見たが、2024年の1月1日現在で1年前から86万人減っていた。

佐賀の人口が今80万人ぐらいなので、1年間で1県丸々なくなるぐらいの人口が減っているのが現実で、5%・9%台っていうのが妥当か、いろんな意見を出して、まとめなければと思う。例えば、直近では負担が高いので5%にして、でも将来的に考えたら本来は15%にすべきじゃないかとか、そういったものを、我々の意見としていくつか出して、最終的にどういう方向に持っていくかというのも一つ考え方じゃないかと思う。

#### ○委員

上水道も合わせて値上がりするのか。

#### ○事務局

今のところ予定はない。

#### ○委員

いろんなものが老朽化している中で、人口減少もそうだが、使用量が減っているということは、当然水道の使用料が少なくなり、収入も少なくなる。一方で設備も維持管理していかないとけない。最近では千葉で20%上がったということで、今、下水道使用料の話をしているが、上水もおそらく上がっていく。5%しか上げないとしても、今後、上水と最終的に20%上がるなどという話になると思う。

気になったのが、国交省の国土強靱化計画で、日本の国土しっかり作っていきましょう

ってなったときに、こういう生活インフラに対して、国としてはこういうことをしっかりやってもらわないと維持管理ができないよっていうことをしっかり話をしてもらっているのかなど。能登地震などのニュースも聞くが、もうこれは全国、佐賀だけの話じゃないと思うが、生活インフラに対しての国の本気度をしっかり、市長会・知事会などでしっかり訴えていかないといけない。

もう一つは、賃金も上がらず非常に厳しい状況の中で、水道代が払えない、そういうふうになっていく可能性もあるのかなど。そういうところをしっかりと取り組んでいただきたい。

### ○委員

総括原価方式で、ここで5年間を見据えた数字ということになっているが、この5年間で設備更新計画は発生しないということか。将来的な大規模な更新に係る費用が確保できないでいいのか。もう一つ資金不足が生じた場合の財源補填の方法を教えてください。

### ○事務局

財源の手当だが、一般財源からの繰り入れは考えておらず、局内で努力をして処理したい。

### ○事務局

あと一つの質問（算定期間5年間の設備更新計画）については、国庫補助によるストックマネジメント計画の中で、老朽化・耐震化対策を行うこととしている。ただし、将来の大規模な施設更新までは考慮していない。

### ○会長

短期的には考えているが、中長期的には考えていないとなると、この先を見据えたことをやっていかないといけないと思う。

前回の改定から何とか努力されてきたと思うが、このままこの5.85%でいくと、将来的に大変になると思うところがある。総括原価方式で求めた改定率に近づけないと将来がきつい。

### ○委員

改定率を出すのであれば、維持管理費がいくらなのか、10年なら10年を見て資本費がどれくらいあるのか、毎年度シミュレーションをしていかないといけない。ずっと年度ごとにやっていって、その中で、経営努力をどうやったのかとか、全部相対的に数字で出していけば、信憑性があると思う。

それともう一つ、一般的なシンクタンクなどから調査をしてもらったらどうか。佐賀市の公共下水道の過去や将来何十年にわたる計画に対して、一度やってみたら、裏付けになると思う。

#### ○委員

修繕費などは、例えば10年後だったら、現在の見積りでは多分合わなくなる可能性もあるので、将来の維持管理費等を見越して総括原価を出す必要がある。多分織り込み済みで算出されていると思うが、ブレというのをいくらか考えているのか。上ブレはあまりないかもしれないが、原価がシミュレーション以上に高くなってしまうという可能性もある。想定していない新たなもので掛かってくる費用も出てくる可能性があるが、その辺りの考え方を伺いたい。

#### ○事務局

投資計画の中で一番難しいのは物価高騰をどう読んでいくか、近年の物価高騰が非常に激しいので、再度見直し国の基準によって、修繕費も高騰しているという想定で作っている。

#### ○事務局

前回、第2回の資料において、財政状況をお示ししている。修繕費、人件費や物価高騰の伸び率、人口減少の下がり幅なども見込んで計画を示しており、ここから不足分を算出して改定率の数字を示している。

#### ○委員

老朽管の改修など、もう1回見直す必要はないのか。できるだけ今の計画を少しでもずらしていくとしないと、計画はそのまま、不足するから上げます、という風を感じる。

老朽管の改修についても、少しずつ延ばして年度の支出額を減らしていくとか、維持費も内部努力をして落としていくとか、そういうのが見えないと値上げについて賛成しにくいと思う。そういう計画を見直した上で、ギリギリここまで努力して足りませんと、そういう数字が出てこないと難しい。

#### ○会長

第1回の説明資料で、主な取組として管路耐震30年プラン、老朽管70年プランなどに取り組みされている。この場合は、取りあえずは、どれぐらい上げるとこまで話を進めていきたい。

#### ○委員

今回、数字が出てきたわけだが、この数字というのは非常に重いものがある、数字がひとり歩きする怖い面もある。今日の資料を見ると「値上げしなくてもよい」というのは、委員の皆さん、ないと思う。もうこれは絶対に値上げだなど。どこまで値上げするかという議論で、数字が出た以上はその数字の根拠が必要。我々のこのメンバーで、どの程度値上げというのは、なかなか難しいと思う。ただ、いろんなものを落とし込んで資料を作っていたというのは評価する。

5.85%だと、資金残高に余裕がない事業運営となるイメージで、9.25%でも、この資金残高でよいのか、よくわからない。

46.78%という改定率は、非常に具体的で重みがある数字だと思っている。

行き着くところ、県内の過去の上げ率と、国の上げ率の2つは非常に参考になる。

もう1つは、ここで上げ幅を押さえておいて、後でツケが回ってくるのは、あまりよろしくないと思う。将来といっても、次の世代の将来じゃなく、すぐ近くの将来なので、そこでグツときてもいけない。かといって今ここで40%の上げ幅とすると、非常に影響が大きく、経済活動に相当影響が出ると思う。当然、水を使う飲食は上がるだろうし、大きな工場などは安い水道料金を求めて移転するなど、いろんな影響が出てくる。全体的に勘案した中で、近隣の過去のパーセンテージを参考にするというイメージを持っている。

上げ幅に対していろんな意見が出たということをもとめていただいて、最終的には値上げ止むなし、みたいなイメージを思っている。

## ○事務局

今後のスケジュールだが、市議会の議決事項になるので、使用料改定の議案を、来年度の議会で提案するという中で、様々な意見がありましようが、執行部といたしましては、今日示した2つの案の幅の中で、今回は上げさせていただきたい。

審議会の委員の皆様には、様々な意見をいただいて、ある程度の方向性をまとめていただき、私どもが率を決定していくというスケジュールになる。

## ○委員

46.78%も上げないといけないというのは、やはりドキッとしたが、市民に寄り添った計画を立てようと努力されていることが伝わってきている。実際自分の生活を見たときに、5.85%であれば安心だが、それを5年というのは不安があって、もしそのメリットであれば、3年ぐらいで見直してというようなことを考えたほうがいいのかなどというふうを感じる。9.25%だと、うちの家庭で言えば2か月で千円未満なので、そこは想定内と感じる。10年20年たったときに、示されている46.78%にどれぐらい近づいていったのか、今後見ていかないといけない。現在の状況を考えてときに、①の提案という率は妥当であると考える。

## ○委員

下水道の基本水量を外すとなった場合、当然、上水道もそうすべきではないかという意見が出てくる。将来的には足並みをそろえておかないと。(上水道と下水道は) 会計は別だということだが、水道、下水道は逓増制、使えば使うほど単価が高くなってきますけど、水道は、逓減制を取るべきという意見がどんどん出てくると思う。

## ○事務局

水道については、施設の改築が目の前に迫っている。物価高騰で改築費用が高騰する恐れが出てきています。水道と下水道の基本使用料の制度の違いは、今後、水道料金の改定を検討する時点で考えたい。

## ○委員

基本水量を外していけば、20 m<sup>3</sup>まで行ったときにはどうなりますか、そのシミュレーションをされているか。シミュレーションがあれば、どれだけの差があるか。

## ○事務局

基本水量制というのはかなり前からある制度で、過度な節水で衛生上の担保が取れないため、20 m<sup>3</sup>までは使用量が変わらないというのが根本的なところで、今となっては、公平性につかない、理由がつかないため、国交省の検討会でも解消したほうがよいという提言が出ており、我々としても、思い切って解消しようと思っている。

20 m<sup>3</sup>までの基本水量を解消し、低い単価を設定している。

## ○委員

私も、他の委員の方が言われるとおおり、一定程度の改定率を確保したほうが良いという考えである。25ページに料金の比較があるが、現状としては佐賀市かなり優秀で下から3番目、改定したら中ぐらいになるが、この資料を出したということは、他のところと比べてどうかということなので、なぜこの料金の差が出ているのかというの理解できないと、何か納得感が出ないと思う。例えば鳥栖市とか大口の工場があるから多分安くなるんだろうとか、基本的に理解はできるが、ある程度下水道とか水道と違ってスケールメリットがあると、それだけ安くなるはずだが、何でこんな中位になってしまうのかというのは、市民の方も多分疑問に思われるかなと思うが。

## ○事務局

下水道は各市町で完結させる事業で、建設費用、維持管理費を勘案した上で、料金を設定しているが、市町によっては、まだ整備途中というところもある。

佐賀市は一般会計からの赤字繰り出しを受けていないが、政策的に赤字繰入れを入れ

てですね、料金を下げているというところもある。

先ほど言った国交省の検討会の中でも、あまり他の市町の料金を気にし過ぎないようにという提案があり、参考に見ていただきたい。

### ○委員

感覚的には公共料金の値上げのマインドの問題にしかならない。一般会計が負担するか、上下水道の会計でどうにかやりくりするか、しかも借入金みたいな形にしかならない。結局、足りないということだけはっきりすると、どっちがいいのか。

例えば、市営バスも赤字で、一般会計から繰入金を受けていると思う。今まで平成22年までは繰入金とかされてなくて、本来必要な法定の繰入金だけしかなかったわけで、そのひずみが、今来ているという話になるのか。値上げも結局消費者マインドといいますか、利用者マインドにしたから、もう今は下から3番目ぐらいのところまでなっている。数字よりもそっちの構造的なものが、気になって仕方ないなという感じがする。どうまとめていいか。

### ○委員

第4回で意見書案の取りまとめと書いてあり、どうまとめるのか気になっていた。上下水道局の意向として、例えば①と②のパターン、どちらかみたいなのは話としてはあると思うが、我々がそこを決めるのは、果たしていかなものかというのは、ごもつともだと思ふ。例えば①と②で決めたとして、それ以外の要素も意見として出すべきと思う。

例えば、上下水道事業の運営は本来どうあるべきかみたいな意見であるとか、今後の使用料の改定はどう、例えば①にした場合はどう、②にした場合はどう、みたいな形。

それと、さらに少子高齢化人口減少がさらに進んだ時の10年後20年後はどうなっているかみたいなことを考えると、こうしたほうがいいんじゃないかという最終的に佐賀市に対して、求める取組であるとか要望とかっていうのを上げてもいいと思う。

今、ここで議論できることっていうのは、まだ選択の余地があるからできるのであって、これが10年後20年後に、今の人口が本当に8割7割になったときに、もう30%上げないと事業が持ちませんよ、だったら多分選択肢がない。今は逆に言うと選択肢があるので、そういった選択の余地も示しながら、どこが妥当なところで皆さん納得して協力頂けるか、そういうまとめがいいような気がする。

### ○事務局

ここ最近、新聞に県内他市の下水道料金を値上げするという記事があった。嬉野市が平均30%、鹿島市が24.49%、両市とも、下水道整備が進んでおらず、経費回収率は一般会計からの繰入れを含んで、両方とも80ぐらい。佐賀市は88で、ルールを作って、基準内で繰り入れをもらっており、先ほど言われた赤字繰り出しは一切もらっておらず



健全経営をしてきたつもりだが、それでももう、どうにもいかないという状況が迫っているので、早めに皆さんにお話をして、料金改定をしていきたいという経緯がある。

今日お出した2つの案の中で、我々は提案をしたいという中で考えており、それに対して賛否の意見も当然結構でございます。その中でいろんな意見を付して市議会へ上程したい。

#### ○委員

我々委員は、資料も頂いて説明を受けているので、中身の理解度が高いが、一般消費者の市民の方が、全ての方が納得していいよというようなものは、なかなか公共料金の値上げですから出てこないと思う。やはり、もうこれじゃしょうがないな、これぐらい上がるはずだったら我慢できるという、ところまで落とし込んでいかないと、やっぱり市民の方に納得はしていただけないのではないかと思う。

これから、広報なり何なりで、大変な時期になってくるという気がするが、そのところをきちっと踏まえてないと、値上げばかりしてというような、賛成意見というのはほとんど出ない。反対意見しか表に出てこないの、そういうところをマスコミとか、それから市の広報紙だとかあります。ただ、広報誌は滅多に見ないので、知らない、知らなかったという人が結構多い。その徹底を図るような配慮をしていただければと思う。

#### ○会長

それでは、本日、予定されている議題は以上で、大体値上げという方向だった。

他にご意見とかご質問があれば、意見質問票を事務局に提出願いたい。次回の会議の冒頭で紹介し、意見交換を行いたい。

それでは以上で、会議を終了したい。事務局にお返す。

### 4. 次回の開催日等について

#### ○事務局

会議を円滑に進行していただきありがとうございました。また、委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

《次回以降の日程 及び事務連絡》

以上で本日の予定は終了いたしました。委員の皆様から何かご質問とかございましたでしょうか。

#### ○委員

5回目は、始まった段階で意見書が出来上がっていて、会長から局長に提出するのか、それとも、まだここで少し固めるのか。

○事務局

取りまとめを終えた意見書を提出していただく形で考えている。

○委員

委員も集まるのか。

○事務局

そこは今後相談していきたい。

それではこれもちまして、令和6年第4回佐賀市上下水道事業経営審議会を終了いたします。ありがとうございました。